

NEC Express5800シリーズ Express5800/120Bb-6

1

導入編

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

「特長」(2ページ)

本製品の特長や添付（または別売品）のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。

「導入にあたって」(8ページ)

システムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。

「お客様登録」(13ページ)

お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。

「セットアップを始める前に」(14ページ)

セットアップの順序を説明します。お使いになるオペレーティングシステムや購入時の本体によってもセットアップの方法は異なります。

「カスタムインストールモデルのセットアップ」(17ページ)

購入したハードディスクドライブにインストール済みのWindows Server 2003 x64 EditionsおよびWindows Server 2003 のセットアップの方法について説明しています。再セットアップの際は、「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」(38ページ)

ハードディスクドライブにWindows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003をインストールする手順について説明しています。再インストールの際にも参照してください。

「応用セットアップ」(67ページ)

システム的环境やインストールするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。必要に応じて参照してください。

「管理用リモートデスクトップについて」(72ページ)

管理用リモートデスクトップの設定について説明します。

「FibreChannelコントローラ(N8403-018)ご使用時の注意事項」(73ページ)

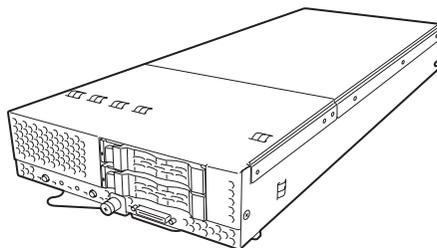
FibreChannelコントローラ(N8403-018)ご使用時の注意事項について説明します。

特長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

高性能

- 高速プロセッサ
(デュアルコア インテル® Xeon® プロセッサ、
クアドコア インテル® Xeon® プロセッサ)
- DDR2-667 SDRAM FB-DIMM
- 高速1000BASE-Tインタフェース (1Gbps対応) x2
- 高速ディスクアクセス
(SAS (Serial Attached SCSI)対応)



高信頼性

- メモリ監視機能
(コレクタブルエラー訂正/アンコレクタブルエラー検出)
- メモリの強制使用(起動)機能
- CPU縮退機能
(障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し)
- パスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常通知
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能
- オートリビルド機能 (ホットスワップ対応)

拡張性

- オプションスロットを装備し、
拡張スロットオプションカードを利用可能
- 最大16GBの大容量メモリ
- 最大2マルチプロセッサまでアップグレード可能
- ネットワークポートを2チャンネル標準装備
- CPUブレード1枚につき最大2台までのハードディスクドライブ
(SAS2.5インチ)が接続可能
- USB 2.0 (2ポート) 対応

管理機能

- ESMPROプロダクト
- DianaScope
- 本体遠隔監視機能 (EXPRESSSCOPEエンジン)

すぐに使える

- Microsoft® Windows Server™ 2003 x64 Editions 日本語版、
Microsoft® Windows® Server 2003 日本語版、
Red Hat® Enterprise Linux® 日本語版またはMIRACLE LINUX日本語版
インストール済み (BTO(工場組み込み出荷)の場合)
- SASハードディスクドライブはケーブルを
必要としないワンタッチ取り付け

保守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

便利なセットアップ ユーティリティ

- EXPRESSBUILDER (システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic (パラメータファイル作成ユーティリティ)
- SETUP (BIOSセットアップユーティリティ)
- LSI Software RAID Setup Utility
(RAIDコンフィグレーションユーティリティ)

豊富な機能搭載

- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- ACリンク機能

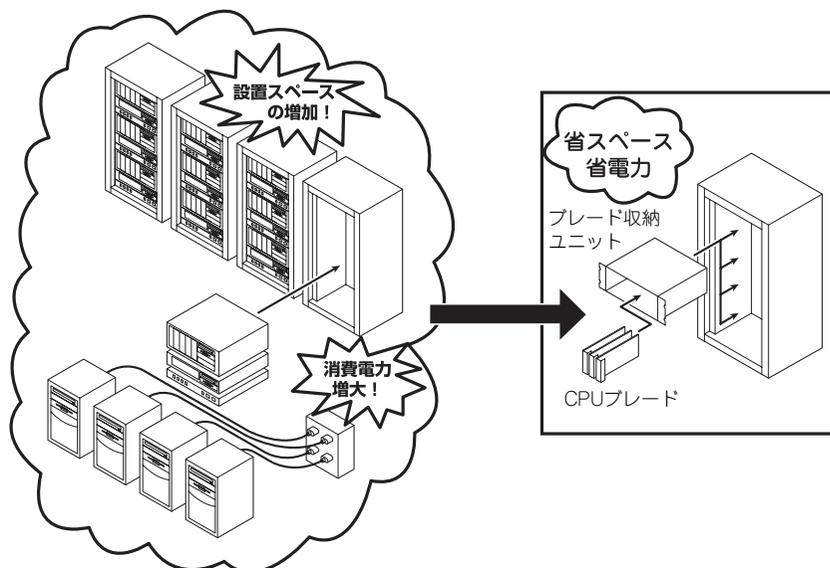
自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- システム診断ユーティリティ

ブレードサーバとは

ますます多様化するインターネット分野において、「わずかな設置スペースで数多くのサーバを運用したい」という要望は、システム管理者として必ず持っているはず。どんなに筐体（ケース）のサイズを小さくしても、1つのケースに1台分のサーバ機能しか持っていなければ、増設のたびに設置スペースは増していきます。また、電源の工事や収納用ラックの購入など必要以上の予算が発生することもあります。

「Express5800/BladeSeverシリーズ」は、サーバ機能を必要最低限まで絞り込み、1枚のボード（CPUブレード）に凝縮した、省スペース・集約型サーバです。



CPUブレードおよびCPUブレードに接続されるハードディスクドライブは、ワンタッチで取り付けることができ、電源やケーブルの配線・接続の必要はありません。また、サーバ機能を搭載したCPUブレードには、オプションでプロセッサやメモリ、PCIオプションカードなどを搭載することができます。

サーバ管理について

本装置は、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。各種リソースの冗長化などといったハードウェア本体が提供する機能と、サーバ本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止または早期に復旧することができます。

また、停電などの電源障害からサーバを守る無停電電源装置などの各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。

各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
ストレージ管理 (ディスク管理)	ハードディスクドライブ	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent Windows 標準のソフトミラーツール
	ディスクアレイコントローラ	MegaRAID Storage Manager
無停電電源装置管理	無停電電源装置 (UPS) * Web/SNMP Management Card*	ESMPRO/AutomagicRunning Controller 製品群 *
ネットワーク管理	ブレード用メザニンカード	WebSAM/Netvisor*
リモート管理	本体標準装備のEXPRESSSCOPE エンジン	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent DianaScope

* オプション製品

サーバ管理

CPUブレード上には標準でシステム監視チップを搭載しており、サーバに内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とシステム管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、サーバの稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は下記の表のとおりです。

また、DianaScopeにより、サーバ上でオペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、リモートのPC上からCPUブレードの電源をONにすることができます。



ESMPRO/ServerManagerやESMPRO/ServerAgent、DianaScopeは標準で添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

機能名	可否	機能概要
ハードウェア	○	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能です。
CPU	○	CPUの物理的な情報を表示する機能です。
システム	○	CPUの論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/Oデバイス	○	I/Oデバイス（フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ）の情報参照をする機能です。
システム環境	△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
温度	○	筐体内部の温度を監視する機能です。
ファン	×	ファンを監視する機能です。
電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能です。
電源	△	電源ユニットを監視する機能です。
ドア	×	Chassis Intrusion（筐体のカバー / ドアの開閉）を監視する機能です。
ソフトウェア	○	サービス、ドライバ、OSの情報を参照する機能です。
ネットワーク	○	ネットワーク（LAN）に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス	×	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS	○	BIOSの情報を参照する機能です。
ローカルポーリング	○	ESMPRO/ServerAgentが取得する任意のMIB項目の値を監視する機能です。
ストレージ	○	ハードディスクドライブなどのストレージ機器やコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム	○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ	○	LSI社製ディスクアレイコントローラ（N8103-73A/80/81）および、Promise社製ディスクアレイコントローラを監視する機能です。 * 上記ディスクアレイコントローラをサポートしていない本体装置の場合、ディスクアレイの情報はデータビューアには表示しません。
その他	○	ウォッチドッグタイマによるOSストール監視をする機能です。
	○	OS STOP エラー発生後の通報処理を行う機能です。

○：サポート △：一部サポート ×：未サポート

筐体センサの監視について

ブレード収納ユニット(SIGMABLADE)に実装されるファン・電源はEMカードにより監視されます。EMカードが監視する情報は、ESMPRO/ServerManagerのエンクロージャビューアで確認できます。

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMPRO] - [システム環境] - [電源]はCPUブレードの電源回路の状態を表示しています。

ストレージ管理 (ディスク管理)

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できるCPUブレードを管理するために次の点について留意してください。

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。標準添付品であるESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentを利用して定期的にディスクの状態をチェックしてください。



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、本製品に標準で添付されています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

CPUブレードに同型番のハードディスクドライブを2台接続し、Windowsを使用する場合は、内蔵ディスクアレイ(LLSW RAID)を使用することができます(122ページ参照)。

また、N8403-019ディスクアレイコントローラ(オプション)を接続し、本システムに搭載したハードディスクドライブ2台をディスクアレイ構成にして運用することができます。

ディスクアレイ構成で運用していれば、万一のディスククラッシュの際にも、アレイディスク内のデータを失うこともなく、復旧することができます。万一のシステムディスクの故障によるデータの紛失を防ぐためにも、RAID1環境の利用をお勧めします。

無停電電源装置管理

商用電源のトラブルは、サーバを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール等によるサーバの自動・無人運転を実現することもできます。

ブレードサーバでは、APC社製UPSをサポートしています。

APC社製UPSの制御・管理は、UPSにWeb/SNMP Management Cardを装着し、ESMPRO/AutomaticRunningController製品群がネットワーク経由にて行います。

電源は、オプションの増設電源ユニットにより電源の冗長構成を構築することができます。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManagerおよびESMPRO/ServerAgentを使用することにより、CPUブレードに内蔵されているLANポートの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。また、別売のWebSAM/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

リモート管理

本体標準装備のEXPRESSSCOPEエンジンとEXPRESSBUILDER に収められているアプリケーション「DianaScope」を使用することにより、LAN/WANを介した本体のリモート監視や管理をすることができます。EXPRESSSCOPEエンジンが提供する管理機能は以下のとおりです。

- 温度/電圧の監視
- ハードウェア障害のシステムイベントログ(SEL)生成機能
- ウォッチドッグタイマによるOSストール監視
- OSストップエラー発生後の通報処理
- Webブラウザを使用したリモート制御（本体装置のリセット、電源ON/OFF、システムイベントログ(SEL)の確認など）
- リモートKVM機能、リモートデバイス機能
- DianaScopeによるLAN/WAN経由でのリモート制御、複数台装置の集中管理

Webブラウザを使用したリモート制御やリモートKVM機能、リモートデバイス機能についてはEXPRESSBUILDER内の「EXPRESSSCOPEエンジンユーザズガイド」を参照してください。

以後、本書ではEXPRESSSCOPEエンジンのことをBMC(Baseboard Management Controller)と記載します。

導入にあたって

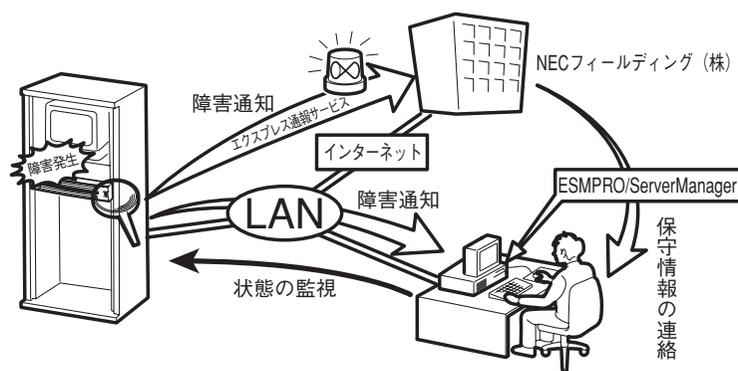
本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

実際にセットアップを始める前に、以下の点を考慮してシステムを構築してください。

装置に標準添付の「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートからサーバの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

運用の際は、「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。



なお、本装置に障害が発生した際に、NECフィールディング（株）がアラート通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」を利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

お買い求めになられたブレードサーバを導入する前に、ブレードサーバ用のハードディスクドライブの状態を確認しておいてください。ブレードサーバ用のハードディスクドライブでは、ご注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

- **オペレーティングシステムのインストール状態について**

注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

出荷時のモデル	説明
カスタムインストール	BTO(工場組み込み出荷)にてWindows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003またはLinuxのインストールを指定された場合。
未インストール	ディスクレスモデルを購入し、OSのプレインストールを希望されなかった場合。

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。16ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、「セットアップ」は必要不可欠なポイントです。セットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。

必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、本装置が提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

- **<その1> 運用方針と障害対策の検討**

ブレードサーバのハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「特長(2ページ)」に示すブレードサーバが提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手だてです。

- **<その2> ハードウェアのセットアップ**

ブレードサーバの電源をONにできるまでのセットアップを確実にを行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。詳しくは、16ページに示す手順に従ってください。

ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺機器の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

● <その3> システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクドライブのパーティションの設定やRAIDシステムの設定、オペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

<初めてのセットアップの場合 (Windows) >

初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

ー 「カスタムインストール」を指定して購入された場合

本装置の電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

ー 「未インストール」にて購入された場合

「未インストールからのセットアップ・再セットアップの場合」に示す手順に従ってください。

<未インストールからのセットアップ・再セットアップの場合 (Windows) >

本装置で未インストールからのセットアップ・再セットアップをサポートしているOS (Windows)は次の通りです。

- ー Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)
- ー Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)
- ー Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)
- ー Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)

未インストールからのセットアップ・再セットアップでは、インストールするOSによって異なります。

<Windows Server 2003 x64 Editions をインストールする場合>

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメント「Windows Server 2003 x64 Editions インストールレーションサプリメントガイド」を参照し、「ローカルインストール」を行ってください。

<Windows Server 2003 をインストールする場合>

本書の38ページを参照し「シームレスセットアップ」を行うか、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメント「Windows Server 2003 インストールレーションサプリメントガイド」を参照し、「ローカルインストール」を行ってください。



Windows Server 2003 x64 Editionsではシームレスセットアップは使用できません。「Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition/Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Editionインストールレーションサプリメントガイド」を参照し、「ローカルインストール」を使用してください。

- **<その4> 障害処理のためのセットアップ(Windows)**

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。

- **<その5> 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ(Windows)**

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、ブレードサーバと同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、ブレードサーバを管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

- **<その6> システム情報のバックアップ**

「オフライン保守ユーティリティ」を使ってCPUブレード上にある設定情報のバックアップを作成します。ブレードサーバの故障などによるパーツ交換後に以前と同じ状態にセットアップするために大切な手順です。詳しくは37ページをご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

ブレードサーバで障害監視などの運用管理を行うには、ブレードサーバに添付されたESMPRO/ServerAgent、およびESMPRO/ServerManager、または別売の同ソフトウェアが必要となります。

この後で説明するセットアップ手順、またはソフトウェアの説明書（別売の場合）に従って各ソフトウェアのインストール、および必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

- **サーバ管理機能を利用するにあたって**

- CPUやメモリを交換した場合やCPU縮退機能（マルチプロセッサモデルの場合）を利用する場合は、BIOSのコンフィグレーションが必要です。「システムBIOS（122ページ）」を参照して「Processor Settings」や「Memory Configuration」、「Advanced」の各項目を設定してください。
- サーバの各コンポーネント（CPU/メモリ/ディスク/ファン）の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。

- **ストレージ管理機能を利用するにあたって（ディスクアレイシステムを使用する場合）**

ディスクアレイシステムの管理を行うには、ESMPRO/ServerAgentに加えて次のソフトウェアが必要です。

- オプション製品であるディスクアレイコントローラを利用する場合は、オプションに添付の説明書を参照してそれぞれの管理ソフトウェアをインストールしてください。

ディスク稼働率や予防保守性を高めるために、ディスクアレイシステムを構築する際は、定期的にディスクアレイシステムの整合性をチェックしてください。

- **無停電電源装置管理機能を利用するにあたって**

- 無停電電源装置（UPS）を利用するには、APC社製UPSにWeb/SNMP Management Cardの装着が必要です。

制御用ソフトウェアにはESMPRO/AutomaticRunningController 製品群が必要です。

- 無停電電源装置を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要です。「システムBIOS（122ページ）」を参照して、「System Hardware」メニューにある「AC-LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

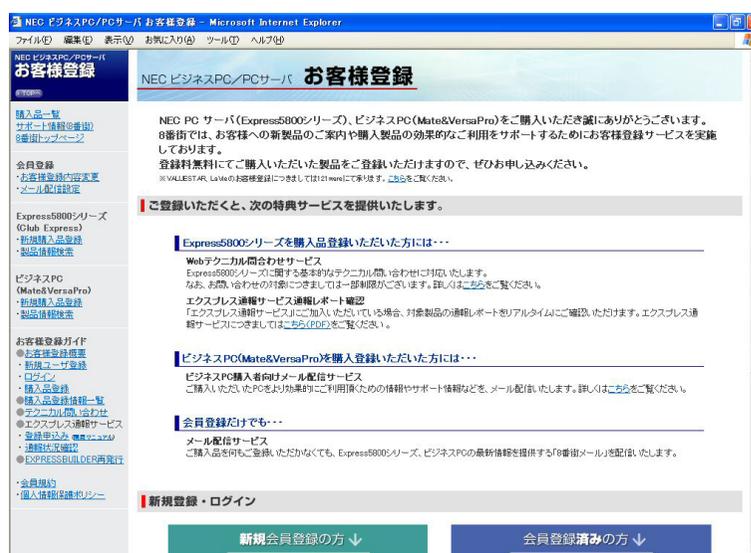
お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「NEC ビジネスPC/PCサーバお客様登録サービス」への登録をお勧めしております。

添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、次のWebサイトからご購入品の登録をしていただくと、お問い合わせサービスなどを無料で受けることができます。

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。

**重要**

BTO(工場組み込み出荷)にてWindowsのインストールを指定した場合は、本装置にWindowsのプロダクトキーが記載されたラベルが貼り付けられています。



プロダクトキーはOSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう取り扱いにご注意下さい。もし剥がれて紛失したり汚れて見えなくなった場合でも、ラベルの再発行はできませんので、あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒にメモを保管されることをお勧めします。

EXPRESSBUILDER がサポートしているサービスパック

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDでは、以下のOSインストールメディアおよびサービスパックの組み合わせをサポートしています。

- Windows Server 2003 R2 x64 Edition
 - － OSインストールメディア (Service Pack 無し)
- Windows Server 2003 R2
 - － OSインストールメディア (Service Pack 無し)

EXPRESSBUILDERがサポートしている大容量記憶装置コントローラ

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDでサポートしている オプションボードは、以下になります。もし、下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボード添付のマニュアルと「応用セットアップ」(67ページ) を参照してセットアップしてください。

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているボード
 - － LSI Embedded MegaRAID™ (マザーボード上のコントローラを利用)
 - － N8403-019 ディスクアレイコントローラ
 - － N8403-018 FibreChannelコントローラ

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

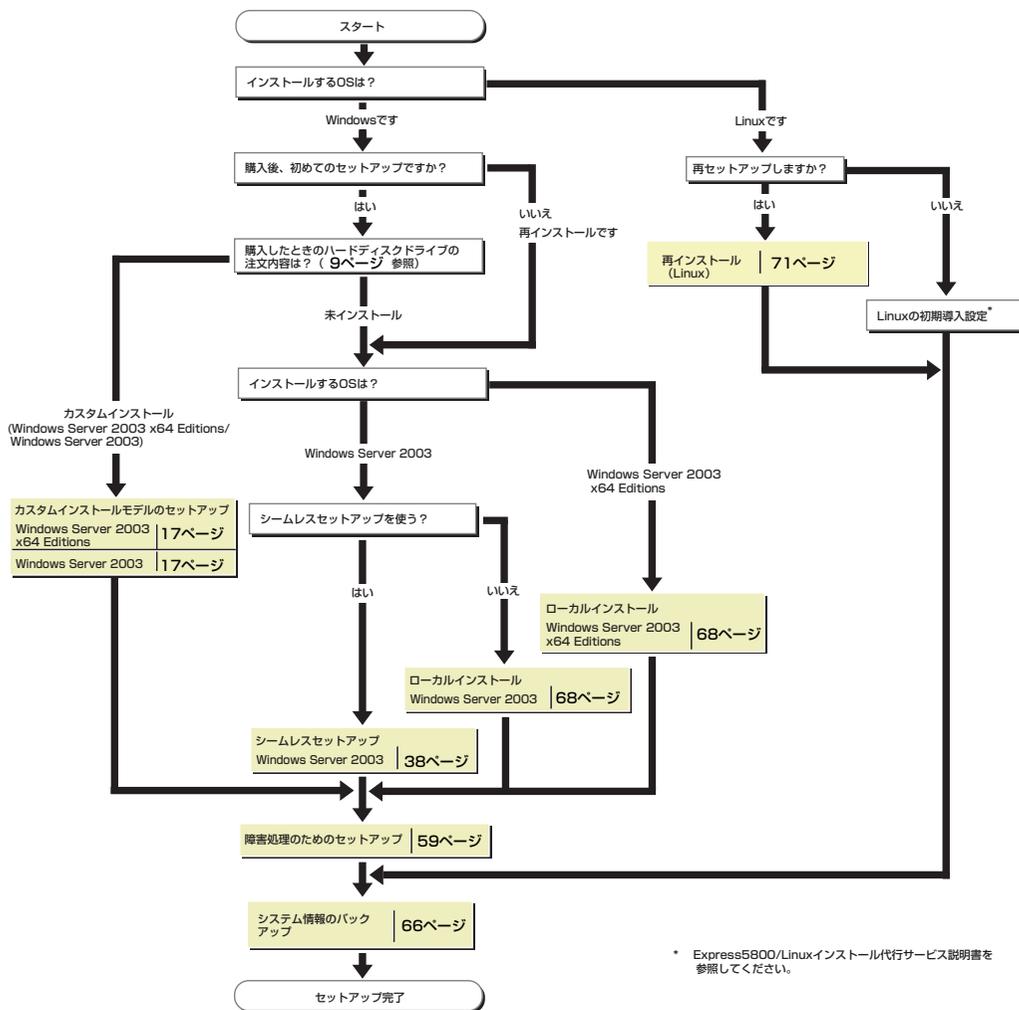
1. ラックを設置する。(ラックに添付の説明書を参照)
2. 別途購入したオプションをブレード収納ユニットに取り付ける。(ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
3. オプションのブレード収納ユニットをラックに取り付ける。(ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
4. CPUブレードにオプションのメモリ (DIMM) を取り付ける。(→107ページ)。
5. CPUブレードにオプションのハードディスクドライブを取り付ける。
6. ブレード収納ユニットにCPUブレードを取り付ける。
7. 添付の電源コードをブレード収納ユニットと電源コンセントに接続する。(ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
8. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

122ページを参照してください。また、システム日時や時刻の調整も忘れずに行ってください。

引き続き、オペレーティングシステムのセットアップへ進んでください。

オペレーティングシステムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。



カスタムインストールモデルのセットアップ

「BTO(工場組み込み出荷)」で「カスタムインストール」を指定して購入された本体のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。



チェック

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された製品で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明していません。

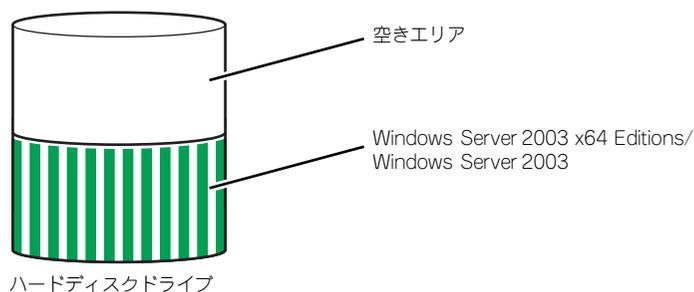
再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に（購入時の状態について）

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本体のハードウェア構成（ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む）やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー（BTO(工場組み込み出荷)）によって異なります。

下図は、ハードディスクドライブのパーティション構成について図解しています。



セットアップの手順

次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

オペレーティングシステムのセットアップ

オペレーティングシステムのセットアップ方法は、ブレード収納ユニットの種類や外付光ディスクドライブなどの周辺機器の接続状況により異なります。

N8405-016ブレード収納ユニットに実装し、ブレード収納ユニット内蔵の光ディスクドライブを使用する場合（N8405-016に実装したローカルでのインストール）

1. ブレード収納ユニットに搭載されたオプションのEMカードのユーザーズガイドを参照して、内蔵光ディスクドライブを使用できるようにKVMとMediaの切替を設定する。



セットアップが終了するまでKVMとMediaの切替を行わないでください。

2. ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照して前面のUSBポートに、外付けフロッピーディスクドライブを接続する。
3. CPUブレードの電源をONにし、そのままWindowsを起動する。
Windowsのセットアップ画面が表示されます。
4. 画面の指示に従って必要な設定をする。
設定を続けていくと最後にセットアップの終了を知らせる画面が表示されます。
5. [完了]をクリックする。
システムが再起動します。
6. 再起動後、システムにログオンする。
7. 21ページ以降を参照して、PROSetのインストールとネットワークドライバの詳細設定をする。
8. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
9. 29ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。
10. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。
インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。
 - － MegaRAID Storage Manager*
 - － ESMPRO/ServerAgent
 - － エクスプレス通報サービス*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。



カスタムインストールで出荷された場合、インストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。
装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows Server 2003 RURx対応(Service Pack x) インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールを行ってください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

11. 37ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

キーボード・ディスプレイ装置・光ディスクドライブ・フロッピーディスクドライブが接続されていない場合



CPUブレードには、ターミナルサービスが「リモート管理サーバ」としてインストールされていますので、設定したクライアント側(以降、TSクライアントと呼ぶ)から、CPUブレードに接続し、CPUブレード側の管理作業を行ってください。

1. 周辺装置、CPUブレードの順に電源をONにする。
2. ターミナルサービス (TS) クライアントのフロッピーディスクドライブおよび光ディスクドライブの共有化を行う。
ドライバなどのインストール時に必要です。
3. TSクライアント側から、CPUブレードに接続する。
手順については、この後の「管理用リモートデスクトップについて」を参照してください。

以降の手順は、TSクライアント側から行うCPUブレードのセットアップ手順です。

4. 管理者権限のあるユーザー (Administratorなど)でログオンする。
手順については、この後の「管理用リモートデスクトップについて」を参照してください。ユーザー名と会社名を入力するウィンドウが表示されます。
5. 使用者名と会社名を入力する。
6. TSクライアント側で共有化したフロッピーディスクドライブおよび光ディスクドライブにドライブ文字を割り当てる。
7. 21ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
8. 29ページを参照し、障害処理のセットアップを行う。

以上でカスタムインストールで購入されたハードディスクドライブ内のオペレーティングシステムのセットアップは終了です。

再インストールする場合は「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。



デバイスドライバのセットアップを行う場合、光ディスクドライブを使用する必要がある場合があります。光ディスクドライブを使用する場合の詳細な手順については、光ディスクドライブのユーザーズガイドを参照してください。(ブレード収納ユニットに内蔵の光ディスクドライブも使用可能です)。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定



ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限 (Administrator等) でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしていません。

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、システムに耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。

PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

● Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。
2. エクスプローラを起動する。

標準のスタートメニューモードの手順

スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。

クラシックスタートメニューモードの手順

スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

3. 「dxsetup.exe」を実行する。

「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥ns41s¥proset¥ws3xpx64」ディレクトリ内の「dxsetup.exe」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。

4. [次へ]をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択して[次へ]をクリックする。
6. [すべて]を選択して[次へ]をクリックする。

7. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
8. [完了]をクリックする。
9. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。
以上で完了です。

- **Windows Server 2003の場合**

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。
2. エクスプローラを起動する。
標準のスタートメニューモードの手順
スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。
クラシックスタートメニューモードの手順
スタートメニューから[プログラム],[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「dxsetup.exe」を実行する。
「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥ns41s¥proset¥2kxpws03」ディレクトリ内の「dxsetup.exe」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。
4. [次へ]をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択して[次へ]をクリックする。
6. [すべて]を選択して[次へ]をクリックする。
7. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
8. [完了]をクリックする。
9. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。
以上で完了です。

ネットワークアダプタの再インストール手順

OSのインストール後にネットワークドライバを削除し、再インストールする場合は以下の手順で再インストールしてください。

Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003の場合

オプションのネットワークボード(N8403-017/020)を使用する場合について説明します。「N8403-017/020」を使用する場合は、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているドライバをインストールしてください。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

「N8403-017/020」のボード名ドライバ

「¥001¥win¥winnt¥w2k3amd¥ns41s¥pro1000¥ws3xpx64」

Windows Server 2003の場合

「N8403-017/020」のボード名ドライバ

「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥ns41s¥pro1000¥ws03xp2k」

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード（N8403-017/020）を使用する場合は、下記のインストール方法に従ってドライバのインストールをしてください。



チェック

オプションのネットワークボードのドライババージョンを確認し、標準装備のネットワークドライバと同じバージョンの場合、下記の〈ドライバのインストール〉は必要ありません。

<ドライババージョンの確認>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]->[Intel(R) PRO/1000 PB ~]をダブルクリックする。
[Intel(R) PRO/1000 PB ~]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ドライバ]タブを選択し、「バージョン」を確認する。
4. 標準装備のネットワーク[Intel(R) PRO/1000 EB ~]を上記手順1.~3.にて同様に確認し、[Intel(R) PRO/1000 PB ~]のバージョンと比較する。

<ドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/1000~]をダブルクリックする。
[Intel(R) PRO/1000~]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [いいえ、今回は接続しません]を選択して[次へ]をクリックする。
5. [一覧または特定の場所からインストールする（詳細）]を選択し、[次へ]をクリックする。
[?その他のデバイス]→[?イーサネットコントローラ]がある場合は[?イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。
6. [次の場所で最適なドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

「N8403-017/020」のボード名ドライバ

「¥001¥win¥winnt¥w2k3amd¥ns41s¥pro1000¥ws3xpx64」

Windows Server 2003の場合

「N8403-017/020」のボード名ドライバ

「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥ns41s¥pro1000¥ws03xp2k」

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

7. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバはEXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行するとインストールされます。

カスタムインストールモデルの場合は自動的にインストールされています。

ドライバを個別に再インストールしたいときは、次の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。
2. スタートメニューから [プログラム]、[アクセサリ] の順でポイントし、[エクスプローラ] をクリックする。
3. 「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥video¥matrox」ディレクトリ内の[setup.exe]アイコンをダブルクリックする。

※ Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

「¥001¥win¥winnt¥w2k3amd¥video¥matrox」ディレクトリ内の [SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

メッセージに従ってインストール作業を進めてください。

途中、「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックし、インストールを続けてください。

4. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合、自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

動的リンクアグリゲーション(DLA)は、接続しているポートを論理的に束ねて、仮想的に1つのネットワークインタフェースとして使用するための機能で、IEEE802.3ad Link Aggregation(DLA)として規定されている機能です。AFT/ALB/DLA機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。



重要

- AFT/ALB のセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタフォルトトレランス(AFT)、アダプティブロードバランシング(ALB)、IEEE802.3ad Link Aggregation(DLA) のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるHUBに接続する場合は、すべて同一LAN(同一ネットワーク)上に存在するよう、HUB同士をカスケード接続にして使用してください。
- 複数台のスイッチを使用する場合は使用者側で十分な評価を実施する必要があります。
- IEEE802.3ad Link Aggregation(D L A)を使用するにあたってはIEEE802.3ad Link Aggregation(Dynamic mode)に対応したスイッチングハブが必要となります。
- マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

- Windows Server 2003 x64 Editions の場合
 1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
 2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
 3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
 4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
 5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」 「IEEE802.3ad 動的リンク アグリゲーション」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
 6. [完了]をクリックする。
 7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。
 8. 「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
 9. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、アダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、アダプタを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

設定が適用されているかの確認は以下の手順を実施してください。論理アダプタのプロパティを開き、[設定]タブを選択し[チーム内のアダプタ]の各アダプタにプライマリまたはセカンダリが表示されているので、表示されていることを確認してください。

10. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

● Windows Server 2003 の場合

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」「IEEE802.3ad 動的リンク アグリゲーション」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。
8. 「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
9. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、アダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、アダプタを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

設定が適用されているかの確認は以下の手順を実施してください。論理アダプタのプロパティを開き、[設定]タブを選択し[チーム内のアダプタ]の各アダプタにプライマリまたはセカンダリが表示されているので、表示されていることを確認してください。

10. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

スケーラブルネットワークパック (SNP)のセットアップ

スケーラブルネットワークパック(Microsoft Windows Server 2003 Scalable Networking Pack)とは、ネットワークパケット処理を専用のネットワークアダプタにオフロードすることによって、ネットワークのスループットを向上させるためのモジュールです。

SNPがサポートしているOSは次のとおりです。

- Windows Server 2003 x64 Editions
- Windows Server 2003

また、SNPには次の3つの機能があります。

- **TCP Chimney Offload**

ネットワークパケットの分割や再構築などの処理をネットワークアダプタに任せることによって、CPUのオーバーヘッドを削減します。

- **Receive-side Scaling**

受信ネットワーク処理が複数のCPUで共有されるようになり負荷分散されます。

- **NetDMA**

通常、ネットワークデータのメモリ転送処理はCPUによって行われますが、これをネットワークアダプタのDMA(Direct Memory Access)を使用することにより、このような処理からCPUを開放します。



Microsoft Windows Server 2003 Scalable Networking Pack の入手については、下記サイトを参照してください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

SNPを使用する場合は、以下手順に従ってセットアップしてください。



セットアップを行う前に、システムのバックアップをとることをお勧めします。

1. システムを起動し、Administratorユーザでログインする。
2. エクスプローラあるいはコマンドプロンプトより、以下のファイルを実行する。
32-bit x86 の場合: WindowsServer2003-KB912222-v9-x86-JPN.exe
x64 Editionの場合: WindowsServer2003.WindowsXP-KB912222-v9-x64-JPN.exe
3. 「セキュリティの警告」画面が表示された場合は、[実行]ボタンをクリックする。
4. ファイルの展開後、[次へ]をクリックする。
5. 「使用許諾契約」画面が表示されるので、使用許諾契約書を読み、[同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。

ファイルのコピーが開始され、インストールが始まります。しばらくするとセットアップウィザード終了画面が表示されます。

6. [完了]をクリックする。
7. システムを再起動する。

以上で完了です。

「プログラムの追加と削除」を起動し、「Windows Server 2003 ホットフィックス - サポート技術情報 (KB) 912222」が表示されていれば、SNPが正常にインストールされています。

なお、SNP のインストール後にシステムをインストール前の状態に戻す必要が生じた場合、以下の手順でSNPをアンインストールしてください。



SNPのインストールを行った後に他のモジュール(Update媒体、ServicePack、セキュリティパッチ等)を適用している場合、それらのモジュールのアンインストールを行ってから、SNPのアンインストールを行ってください。

1. Administrator ユーザでログインする。
2. 「プログラムの追加と削除」を起動する。
3. 以下を選択し、「削除」ボタンをクリックする。

"Windows Server 2003 ホットフィックス - サポート技術情報 (KB) 912222"

4. 「ソフトウェア更新の削除ウィザード」が起動されるので、[次へ]をクリックする。

KB912222 のアンインストールが始まります。しばらくするとアンインストール終了画面が表示されます。

5. [完了]をクリックする。
6. システムを再起動する。

FibreChannelコントローラ(N8403-018)を追加接続する場合

Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003の場合

システムにFibreChannelコントローラ(N8403-018)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動インストールされません。その場合には、システムのアップデートを行ってください。システムのアップデートを行うとドライバが自動でインストールされます。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。



ここではWindows Server 2003の場合を例にして手順を示していますが、Windows Server 2003 x64 Editionsでも同様の手順でセットアップしてください。

メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。

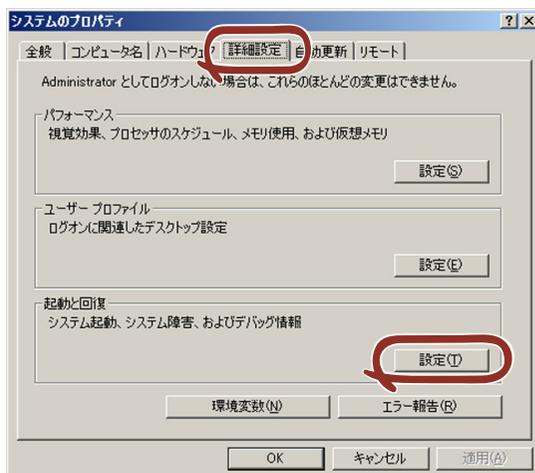


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

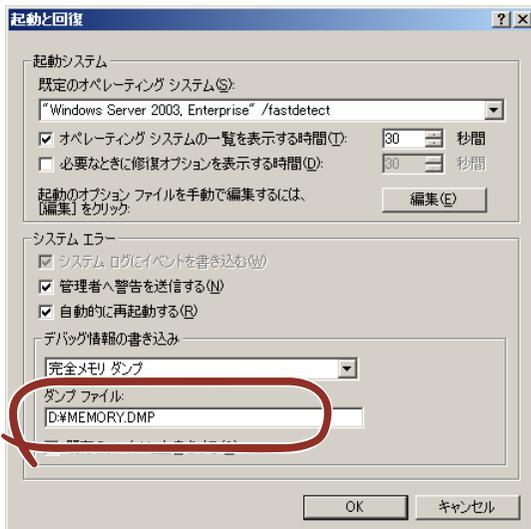
1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定] タブをクリックする。
3. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



4. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



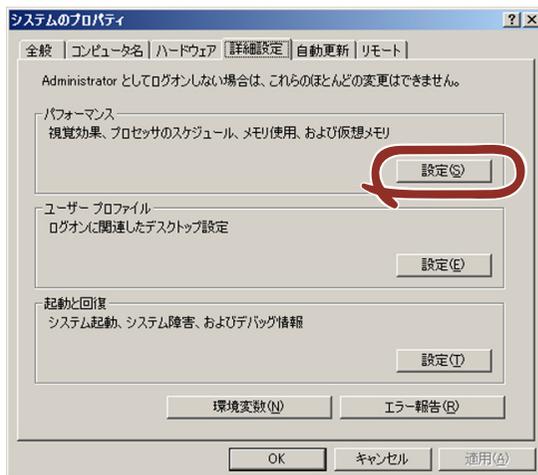
Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ情報 (メモリダンプ) の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

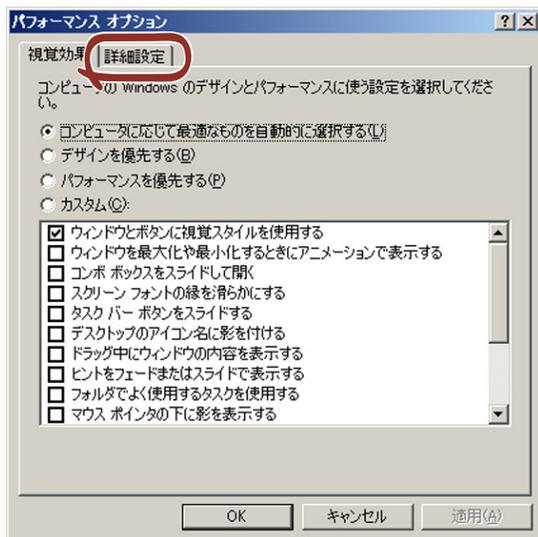
Windows Server 2003の場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上 (メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上) の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ情報 (メモリダンプ) の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

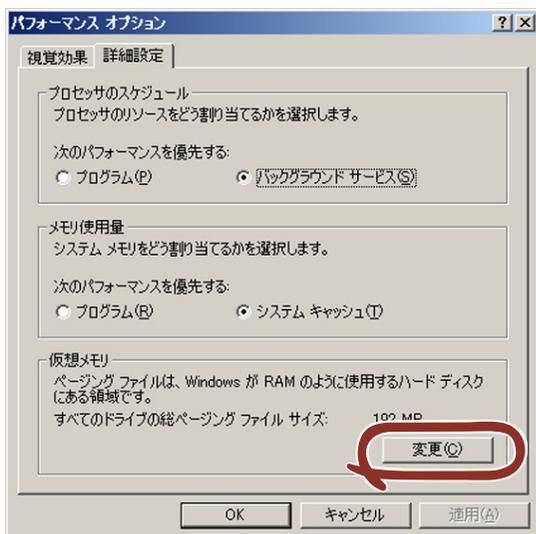
5. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



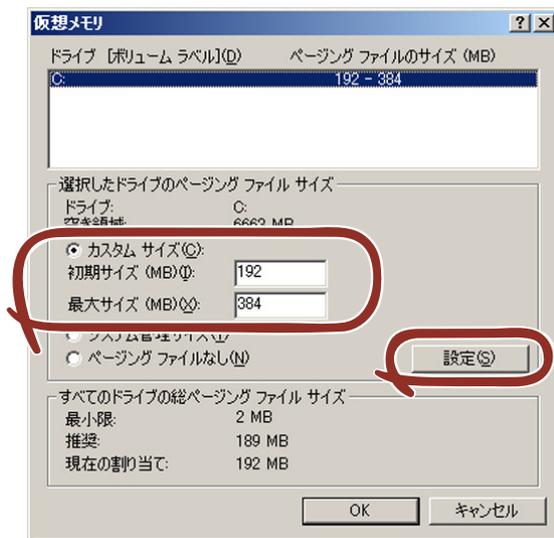
6. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。



7. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ] ボックスの [初期サイズ] を[すべてのドライブの総ページング ファイルサイズ]ボックスに記載されている推奨値以上に変更し、[設定] をクリックする。



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、インストールサプリメントガイドの「注意事項」の「システムパーティションのサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

9. [OK] をクリックする。

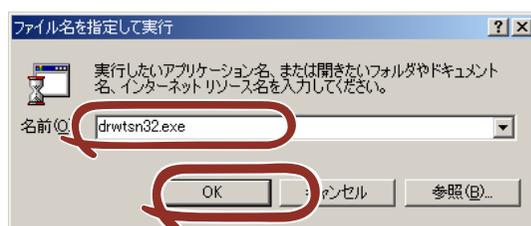
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

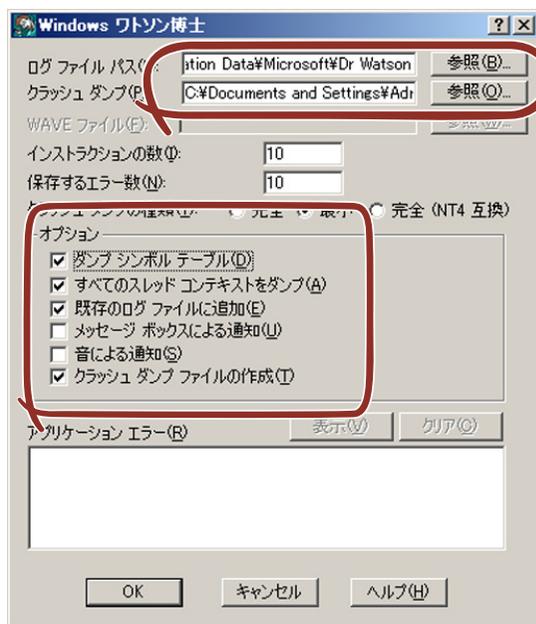
Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
2. [名前] ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK] をクリックする。

[Windowsワトソン博士] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス] ボックスに診断情報の保存先を指定する。



「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK] をクリックする。

管理ユーティリティのインストール

出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をしてください。インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- MegaRAID Storage Manager*
- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express 本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

上記のソフトウェアの一部は、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されています。インストールされていない場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」またはオプション品に添付の説明書を参照してください。

システムのアップデート

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- CPUを増設（シングルプロセッサからマルチプロセッサへ増設）した場合
- 再セットアップを行った場合
- システム構成を変更した場合（内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合）
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップツールを使用しシステムをリストアした場合
（サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。）
- 本装置のBIOSセットアップユーティリティを使って「Hyper-Threading Technology」の設定を変更した場合（プロセッサに関する設定項目です）

ターミナルサービスクライアントからアップデートする場合



- ターミナルサービスクライアントの光ディスクドライブがネットワークドライブに割り当てられ、共有化されていることを確認してください。共有化されていない場合は、ネットワークドライブに割り当て共有化してください。
- 光ディスクドライブ以外のネットワークドライブが割り当てられて接続されている場合は手動で切断後に行ってください。システムのアップデートを適用後、再起動してから手動で接続を行ってください。

1. ターミナルサービスクライアントに管理者権限のあるアカウント(Administrator など)でシステムにログオンする。
2. ターミナルサービスクライアントの光ディスクドライブに、「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。

ターミナルサービスクライアントの画面にメニューが表示された場合は、終了させてください。

3. <Windows Server 2003 x64 Editionsの場合>

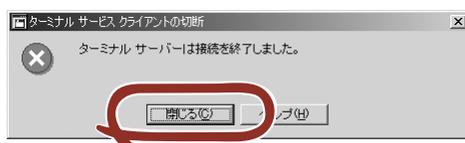
[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、[名前] ボックスに「¥001¥win¥winnt¥w2kamd¥update.vbs」を入力し、[OK] をクリックする。

<Windows Server 2003の場合>

[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、[名前] ボックスに「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥update.vbs」を入力し、[OK] をクリックする。

以降は、ターミナルサービスクライアントの画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、システムのアップデートを適用してください。

下の画面が表示されたら [閉じる] をクリックしてください。



CPUブレード側への再接続は、約5分たってから行ってください。システムのアップデートを適用中、ターミナルサービスの接続は自動で切断され、CPUブレードが再起動します。

ローカルでアップデートする場合

「EXPRESSBUILDER」DVDに収録されている各OSのインストレーションサブリメントガイドを参照して実施してください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照して、外付けフロッピーディスクドライブをブレード収納ユニットに接続する。または、外付けフロッピーディスクドライブをK410-150(00) SUVケーブルに接続する。

SUVケーブルへの接続については、90ページを参照してください。

3. 「EXPRESSBUILDER」DVDを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。

EXPRESSBUILDERから起動して「Boot Selection」メニューが表示されます。

4. [Tool menu (Normal mode)] - [Japanese] - [Maintenance Utility] を選択する。

5. [システム情報の管理] から [退避] を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップします。

本機能は、本体に接続された RAID コントローラを自動認識してRAIDシステムを構築しますので、あらかじめ、「ハードウェアのセットアップ」(15ページ)の設定を完了させておいてください。



重要

シームレスセットアップでは、設定によってはハードディスクの内容を削除します。入力するパラメータにご注意ください。特に、以下の設定時には注意が必要です。

- Step 4 「RAIDの設定」
- Step 5 「メディアとパーティションの設定」

必要に応じユーザーデータのバックアップを取ることを推奨します。



チェック

本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していないRAIDコントローラやSCSIボードなどの大容量記憶装置コントローラを搭載し、システムディスクとして使用するハードディスクドライブを接続している場合は、後述の「応用セットアップ」も併せて参照してください。



ヒント

- シームレスセットアップでは、あらかじめ作成したパラメータファイルを使用したり、セットアップ中に設定したパラメータをパラメータファイルとしてフロッピーディスク(別途1.44MBフォーマット済み空きフロッピーディスクをお客様でご用意ください)に保存することができます。フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USBフロッピーディスクドライブをご用意ください。
- パラメータファイルは、EXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。
- ExpressPicnicを使ったパラメータファイルの作成方法については、172ページを参照してください。

セットアップ前の確認事項について

シームレスセットアップを始める前に、ここで説明する注意事項について確認しておいてください。

Windowsファミリについて

Windows Server 2003ファミリのうち、シームレスセットアップでインストール可能なエディションは次のとおりです。サービスパックについては、「EXPRESSBUILDER がサポートしているサービスパック」(14ページ)を参照してください。

- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版

以降「Windows Server 2003」と呼びます。

上記以外のエディションをインストールしたいときは、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。



Windows Server 2003 x64 Editions では、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition / Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition インストールガイド」を参照し、「ローカルインストール」を使用してください。

BIOSの設定について

Windows Server 2003をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。122ページを参照して設定してください。

注意すべきハードウェア構成について

Windows Server 2003をシームレスセットアップでインストールするとき、次のようなハードウェア構成においては特殊な手順が必要となります。

- **ミラー化されているボリュームへの再インストールについて**

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームに再インストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

- **MO装置の接続について**

Windows Server 2003をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

- **DAT等のメディアについて**

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

- **複数台のハードディスクドライブ（論理ドライブ）の接続について**

Windowsシステムをインストールしようとするハードディスクドライブのほかに別のハードディスクドライブを接続する場合は、Windowsをインストールした後に接続してください。また、論理ドライブが複数存在するシステムへの再セットアップについては、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」（69ページ）を参照してください。

- **ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて**

ダイナミックディスクへアップグレードした場合、既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。この場合、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている「Windows Server 2003インストールセッションサプリメントガイド」を参照してセットアップしてください。

システムパーティションのサイズについて

Windowsシステムをインストールするために必要なパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 3500MB(Windows Server 2003 R2)
ページングファイルサイズ（推奨）	= 搭載メモリサイズ× 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ+ 12MB
アプリケーションサイズ	= 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル) 採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$$3500\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 12\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = \\ 4792\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。



シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズを「上記の必要最小限のパーティションサイズ+ 850MB」または「4095MB」のうち、どちらか大きい値に設定してください。

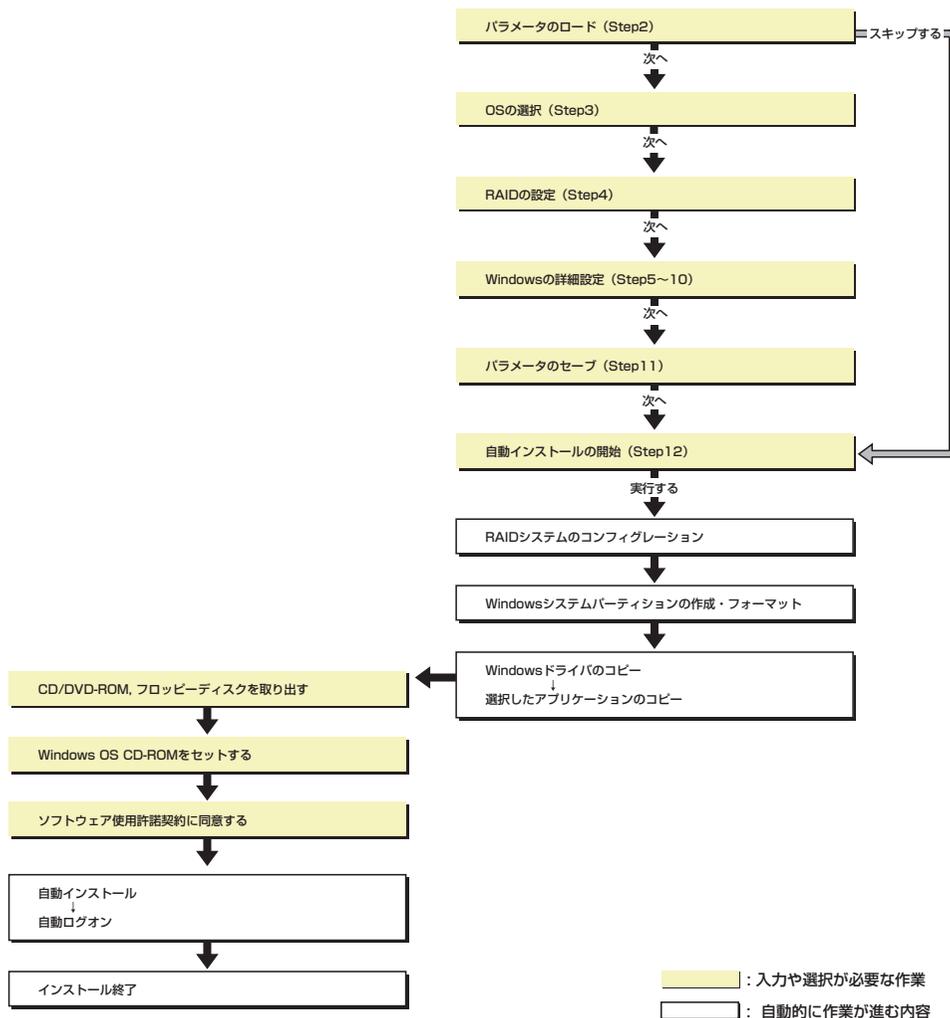
サービスパックの適用について

- Windows Server 2003 R2 をインストールする場合は、Service Pack 1を適用する必要はありません。
- Service Pack 2 (CD-ROM) を使用しサービスパックを適用する場合は、装置に添付の「NEC Express5800シリーズ Windows® Sever 2003 RUR CD-ROM」を使用し適用してください。
- 本装置に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報をお確かめた上で使用してください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

セットアップの流れ

シームレスセットアップの流れを図に示します。



セットアップの手順

シームレスセットアップでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。このとき、各パラメータを一つのファイル（パラメータファイル）としてフロッピーディスクへ保存することも可能です。



チェック

パラメータファイルを使ってセットアップするときは、ファイル保存用として1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクが1枚必要となります。あらかじめ、お客様でフロッピーディスクをご用意ください。

再インストールのときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略することができます。



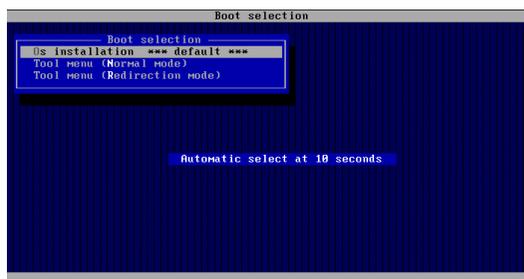
重要

事前に「注意すべきハードウェア構成について」（39ページ）を確認してください。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置の光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
3. DVDをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

DVDからEXPRESSBUILDERが起動します。

以下のメッセージが表示されたら、「OS installation *** default ***」を選択してください（何もキー入力がない場合でも、自動的に手順4の画面へ進みます）。



4. [シームレスセットアップを実行する]を選択し、[次へ]をクリックする。



5. パラメータをロードする。

[パラメータのロード]画面が表示されます。



[パラメータファイルを使用しない場合]

[パラメータをロードしない] を選択して、[次へ]をクリックする。



チェック

フロッピーディスクドライブが本体に接続されていない場合、こちらを選択してください。

[パラメータファイルを使用する場合]

[パラメータをロードする] を選択し、パラメータファイルのパスをボックスへ入力する。この後、各ウィザードにてファイルからロードされたパラメータを確認する場合は[次へ]を、確認しないでそのままインストールする場合は[スキップする]をクリックする。



チェック

パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。

[次へ]をクリック→手順 6へ

[スキップする]をクリック→手順 15へ

6. インストールするOSを選択する。

[Windows(32bitエディション)をインストールする]を選択して、[次へ]をクリックしてください。



7. RAIDの設定をする。

[RAIDの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



- 論理ドライブの作成には同型番の物理ディスクしか使用できません。
- 正常に終了しない場合は、EXPRESSBUILDER 内にドライバが収録されていない可能性が有ります。「セットアップを始める前に (14ページ)」をご参照願います。

8. メディアとパーティションの設定をする。

[メディアとパーティションの設定]画面が表示されます。

設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



- **パーティションサイズについて**
 - － OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください。(40ページ参照)
 - － 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
 - － RAID構成で2,097,152MB(2TB)以上のパーティションは作成できません。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規に作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(40ページ参照)。「Windows システムドライブの設定」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。

9. 基本情報の設定をする。

[基本情報の設定]画面が表示されます。

ユーザー情報を入力して[次へ]をクリックしてください。



ヒント

- パラメータファイルを使用してセットアップを行った場合や、Step7以降の画面からStep6に画面を戻した場合、「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「??????」が表示されます。
- 日本語入力する場合は、<Alt>+<半角/全角>キーを押してください。

10. ネットワークプロトコルの設定をする。

[ネットワークプロトコルの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

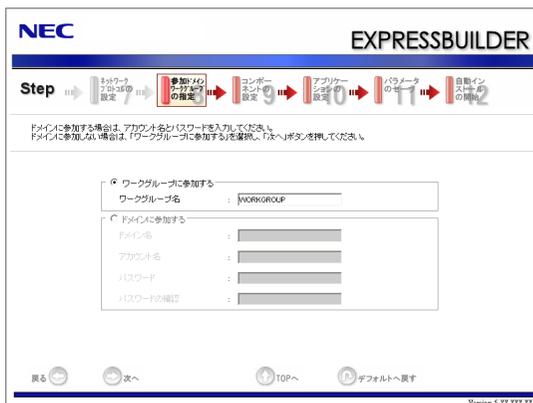


ヒント

カスタム設定での登録順は、LANポートの番号と一致しない場合があります。

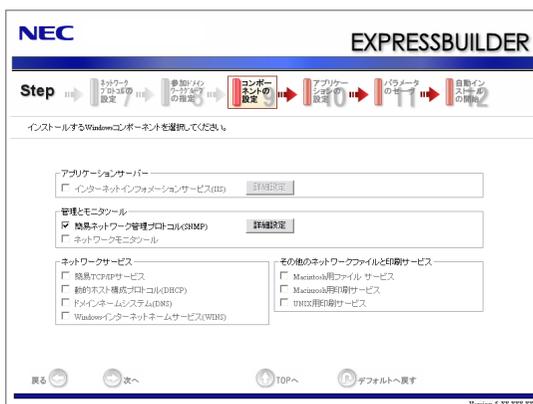
11. 参加ドメイン・ワークグループを指定する。

[参加ドメイン・ワークグループの指定]画面が表示されます。
設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



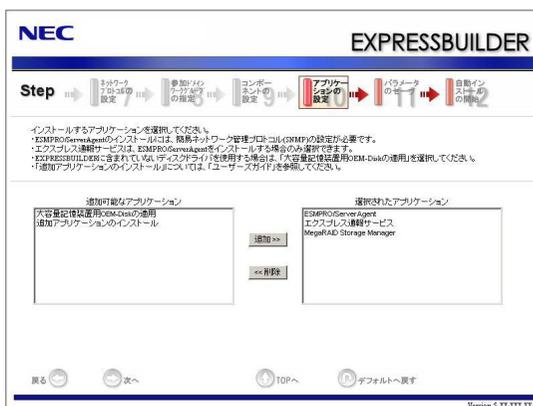
12. コンポーネントの設定をする。

[コンポーネントの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



13. アプリケーションの設定をする。

[アプリケーションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して[次へ]をクリックしてください。





「追加アプリケーションのインストール」について

「追加アプリケーションのインストール」とは、シームレスセットアップの最後にあらかじめ指定された任意のアプリケーションを自動でインストールする機能です。

詳細については、<http://www.ace.comp.nec.co.jp/product/2nd/expicnic/>の[重要事項]-[追加アプリケーションのインストールについて]を参照してください。

14. パラメータをセーブをする。

[パラメータのセーブ]画面が表示されます。



[パラメータファイルを保存しない場合]

「パラメータをセーブしない」を選択して、[次へ]をクリックする。



フロッピーディスクドライブが本体に接続されていない場合、こちらを選択してください。

[パラメータファイルを保存する場合]

「パラメータをセーブする」を選択し、フォーマット済みフロッピーディスクをセットした後、パラメータファイルのパスをボックスへ入力し、[次へ]をクリックする。



パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。



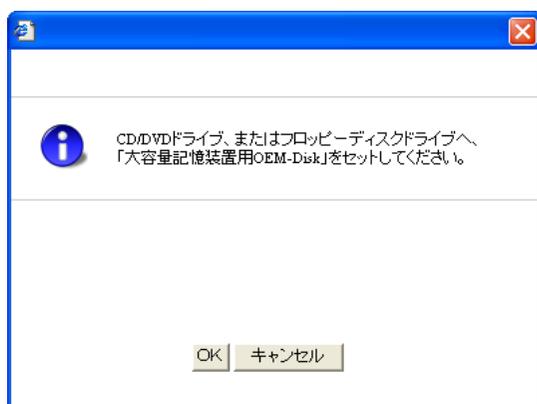
ここで作成したパラメータファイルは、再インストールのときに使用することができます。また、パラメータファイルは「ExpressPicnic」からも作成することができます。

15. 自動インストールの開始画面で[実行する]をクリックする。



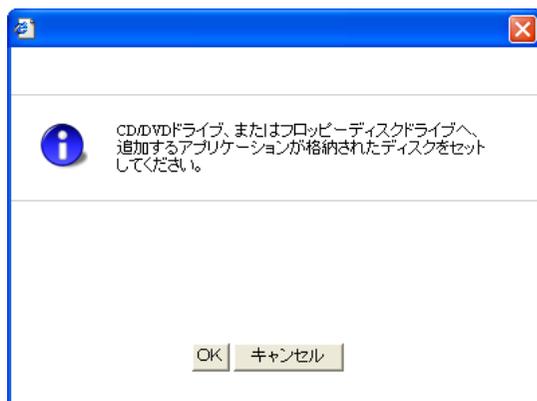
16. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、メッセージが表示されますので、大容量記憶装置に添付されているCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



17. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されますので、追加するアプリケーションのCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



18. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出す。

フロッピーディスクがドライブにセットされている場合は、DVDと一緒に取り出ししておいてください。

19. Windows Server 2003 CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約] 確認画面が表示されます。



20. 「ソフトウェア使用許諾契約書」の内容をご確認のうえ、同意する場合は、[はい]をクリックする。

同意しない場合は、[いいえ]をクリックしてください。

Windows Server 2003と指定したアプリケーションは、自動的にインストールされ数回再起動がかかります。

再起動後は、自動的にシステムにログオンします。

21. [セットアップ完了]画面で[OK]をクリックする。

22. Microsoft Windows Server 2003 R2をインストールの場合は、インストール完了後、[Windows セットアップ] 画面が表示されます。



Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition DISC 2 またはMicrosoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition DISC 2を光ディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

以降はメッセージに従って作業を進めてください。

インストール終了後、Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition DISC 2 またはMicrosoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition DISC 2を光ディスクドライブから取り出し、再起動してください。

23. PROSetをインストールする。

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。

PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- － Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、装置に耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。

PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

- (1) 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

オートランで起動するメニューが表示されたら、メニュー画面を閉じてください。

- (2) エクスプローラを起動する。

- (3) 「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥ns41s¥proset¥2kxpws03」ディレクトリ内の「dxsetup.exe」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。

- (4) [次へ]をクリックする。

- (5) [使用許諾契約の条項に同意します]を選択して[次へ]をクリックする。

- (6) [すべて]を選択して[次へ]をクリックする。

- (7) [インストール]をクリックする。

[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

- (8) [完了]をクリックする。

- (9) システムを再起動する。

- (10) 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。

以上で完了です。



チェック

ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限（Administrator等）でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしていません。

24. ネットワークドライバのセットアップをする。

標準装備の2つのネットワークドライバは、BTO出荷時、またはEXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行するとインストールされます。

インストール後は、次の手順に従って、ドライバへ転送速度とDuplexモードの設定をしてください。また、IPアドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレスの設定をしてください。

<PROSetがインストールされていない場合>

- (1) デバイスマネージャを起動する。
- (2) ネットワークアダプタを展開し、[Intel(R) PRO/1000 EB Network Connection with I/O Acceleration]をダブルクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティのダイアログボックスが表示されます。
- (3) [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
- (4) ネットワークアダプタのプロパティのダイアログボックスの[OK]をクリックする。
- (5) 同様の手順にて、もう一方のネットワークアダプタ[Intel(R) PRO/1000 EB Network Connection with I/O Acceleration #2]の設定を行う。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

- (1) デバイスマネージャを起動する。
- (2) ネットワークアダプタを展開し、[Intel(R) PRO/1000 EB Network Connection with I/O Acceleration]をダブルクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティのダイアログボックスが表示されます。
- (3) [リンク速度]タブをクリックし、[速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
- (4) ネットワークアダプタのプロパティのダイアログボックスの[OK]をクリックする。
- (5) 同様の手順にて、もう一方のネットワークアダプタ[Intel(R) PRO/1000 EB Network Connection with I/O Acceleration #2]の設定を行う。

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続] からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。



- サービスの追加にて、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。
[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム（またはパケット）を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。
- 残り1つのネットワークポートは「管理用ポート」です。このポートに関するセットアップについては、「EXPRESSBUILDER」DVD内にあるオンラインドキュメント「EXPRESSSCOPEエンジン 2ユーザーズガイド」を参照してください。

25. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、それぞれを確実にインストールする。

26. 59ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

27. 66ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、アダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、アダプタを選択し、「セカンダリの設定」をクリックしてください。

両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

設定が適用されているかの確認は以下の手順を実施してください。

論理アダプタのプロパティを開き、[設定]タブを選択し[チーム内のアダプタ]の各アダプタにプライマリ又はセカンダリが表示されているので、表示されていることを確認する。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。



重要

- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN（同一ネットワーク）上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
- アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。
- マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8403-017/020)を使用する場合について説明します。「N8403-017/020」を使用する場合は、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているドライバをインストールしてください。

「N8403-017/020」の場合

「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥ns41s¥pro1000¥ws03xp2k」

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

オプションのネットワークボード(N8403-017/020)を使用する場合は、下記のインストール方法に従ってドライバのインストールをしてください。

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/1000~]をダブルクリックする。

[Intel(R) PRO/1000~]ダイアログボックスが表示されます。



[? その他のデバイス]→[? イーサネットコントローラ]がある場合は[? イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。

3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [いいえ、今回は接続しません]を選択して、[次へ]をクリックする。
5. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、

「N8403-017/020」の場合

「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥ns41s¥pro1000¥ws03xp2k」

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

7. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、EXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行するとインストールされます。
カスタムインストールモデル、もしくはシームレスセットアップを実施した場合は自動的にインストールされています。

ドライバを個別に再インストールしたいときは、次の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。
オートランで起動するメニューが表示されたら、メニュー画面を閉じてください。
2. スタートメニューから [プログラム] - [アクセサリ] の順でポイントし、[エクスペローラ] をクリックする。
3. 「¥001¥win¥winnt¥dotnet¥video¥matrox」ディレクトリ内の[setup.exe] アイコンをダブルクリックする。
メッセージにしたがってインストール作業を進めてください。途中、「デジタル署名が見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックし、インストールを続けてください。
4. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。

FibreChannelコントローラ(N8403-018)を追加接続する場合

Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003の場合

システムにFibreChannelコントローラ(N8403-018)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動インストールされません。その場合には、システムのアップデートを行ってください。システムのアップデートを行うとドライバが自動でインストールされます。

Boot.iniファイルで使用可能なスイッチオプションについて

Boot.iniファイルを編集することで、さまざまなスイッチオプションを使用することができます。使用可能なオプションについては、以下を参照してください。

- サポート技術情報-KB833721

Windows XPおよびWindows Server 2003のBoot.iniファイルで使用可能なスイッチオプション

4GBを超えるメモリを搭載できる装置では /PAE オプションの設定を行うことで 4GB を超えるメモリを使用できるようになります。

/PAEオプションは、サポートされている製品が限定されています。

以下のマイクロソフトサポート技術情報（サポート技術情報-KB291988）を参照して確認してください。

- サポート技術情報-KB291988

4GB RAMチューニング機能と物理アドレス拡張のスイッチの説明

以下に編集例を示します。

1. 「スタート」メニューから[設定] をポイントして、[コントロール パネル]をクリックする。
2. 「コントロール パネル」 から、[システム]アイコンをダブルクリックする。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
3. [詳細設定]タブから「起動と回復」にある[設定]をクリックする。
4. 「起動と回復」画面にある「起動システム」の[編集]をクリックし、「Boot.ini」を開く。
5. 「Boot.ini」ファイルの[operating systems]に“/PAE”を追加し、上書き保存する。

<Boot.ini ファイルの例>

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)\WINDOWS
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)\WINDOWS="Windows Server 2003 "
/fastdetect
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)\WINDOWS="Windows Server 2003 ,
PAE" /fastdetect /PAE
C:\CMDCONSOLE\BOOTSECT.DAT="Microsoft Windows 回復コンソール" /cmdcons
```

以上でBoot.iniへの編集は終了です。



「起動/回復」画面にある「既定のオペレーティングシステム」で選択したエントリから自動的に起動するように設定することができます。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。



ここではWindows Server 2003の場合を例にして手順を示していますが、Windows Server 2003 x64 Editionsでも同様の手順でセットアップしてください。

メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。

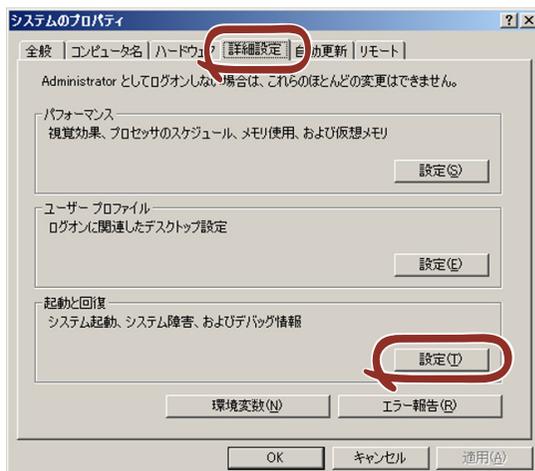


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

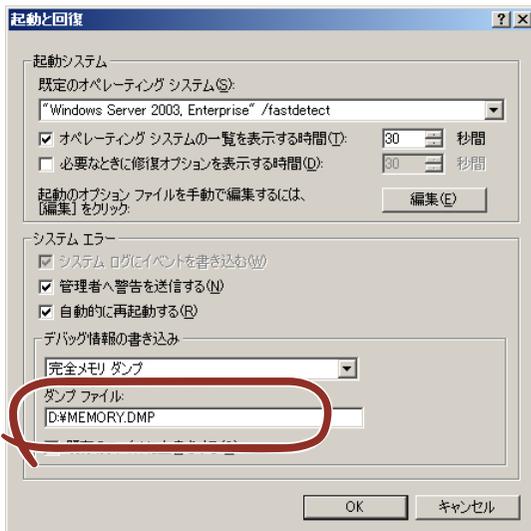
1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定] タブをクリックする。
3. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



4. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



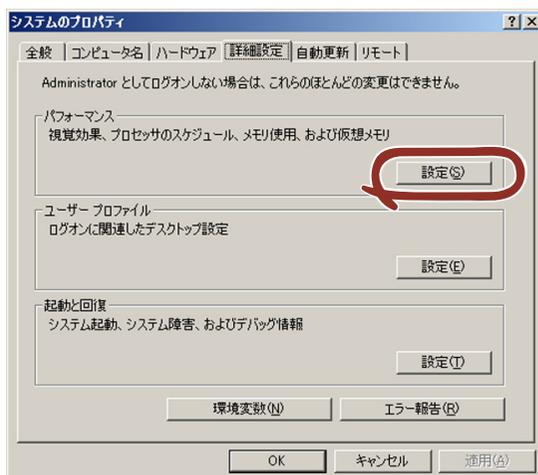
Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ情報 (メモリダンプ) の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

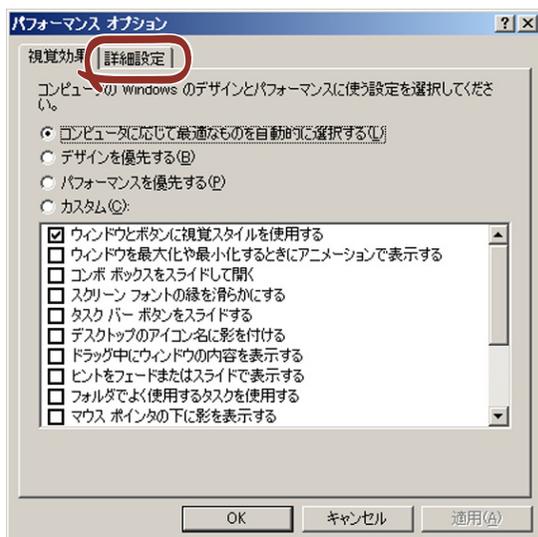
Windows Server 2003の場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上 (メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上) の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ情報 (メモリダンプ) の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

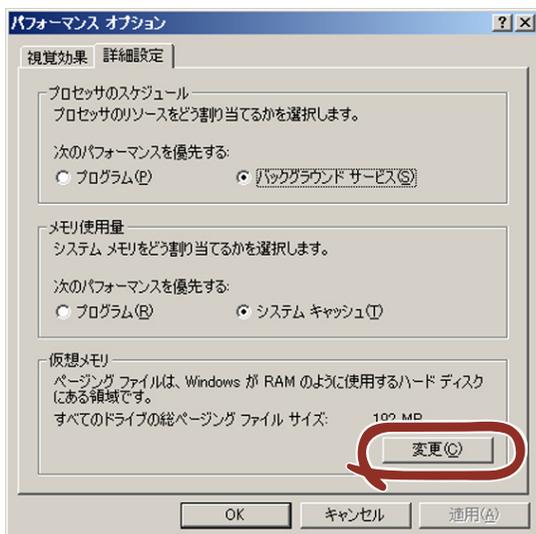
5. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



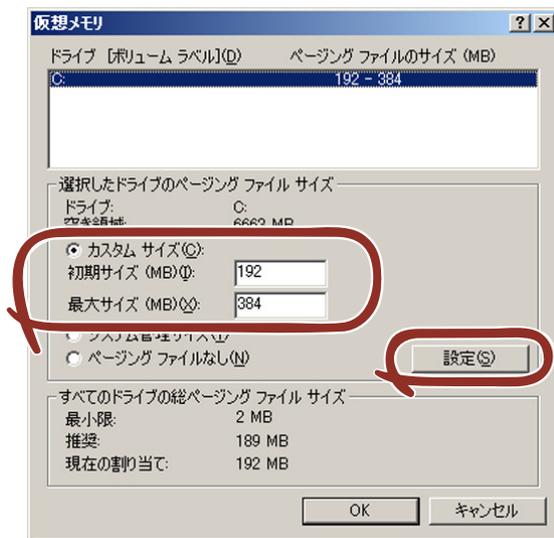
6. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。



7. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ] ボックスの [初期サイズ] を[すべてのドライブの総ページング ファイルサイズ]ボックスに記載されている推奨値以上に変更し、[設定] をクリックする。



重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、インストールサプリメントガイドの「注意事項」の「システムパーティションのサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

9. [OK] をクリックする。

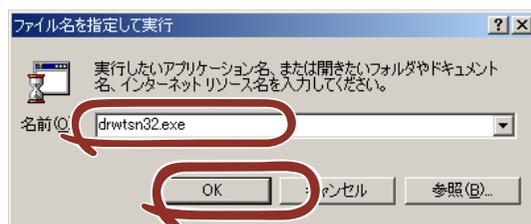
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

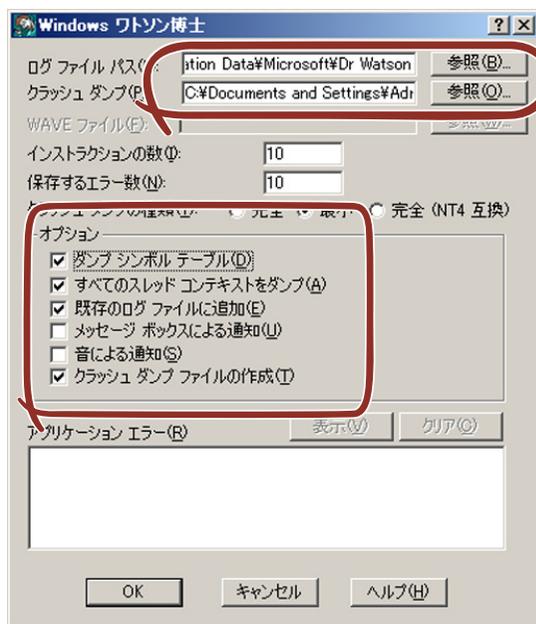
Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
2. [名前] ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK] をクリックする。

[Windowsワトソン博士] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス] ボックスに診断情報の保存先を指定する。



「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- － ダンプシンボルテーブル
- － すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- － 既存のログファイルに追加
- － クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK] をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから [設定] をポイントし、[コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] ダイアログボックスが表示されます。
2. [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックする。
[プログラムの追加と削除] ダイアログボックスが表示されます。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除] をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード] ダイアログボックスが表示されます。
4. コンポーネントの [管理とモニタ ツール] を選択し、[詳細]をクリックする。
[管理とモニタ ツール]ダイアログボックスが表示されます。
5. 管理とモニタ ツールのサブコンポーネントの[ネットワーク モニタ ツール] チェックボックスをオンにして[OK]をクリックする。
6. [Windows コンポーネント ウィザード] ダイアログボックスに戻りますので、[次へ]をクリックする。
7. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、要求されたCD-ROMを光ディスクドライブにセットして [OK] をクリックする。



ディスクの挿入を求めるメッセージは“Service Pack 1 CD-ROM ラベルの付いたCD”と表示される場合がありますが、Windows Server 2003 R2をご使用の場合は、“Windows Server 2003 R2 DISC 1”を光ディスクドライブにセットしてください。

8. [Windows コンポーネント ウィザード] ダイアログボックスの [完了] をクリックする。

9. [プログラムの追加と削除] ダイアログボックスの [閉じる] をクリックする。
10. [コントロールパネル] ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから [プログラム] → [管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ] をクリックすることにより、起動することができます。操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDには、監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。
[スタート] メニューの [プログラム] やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート

「システムのアップデート」は、シームレスセットアップで自動的に実施されます。システムのアップデートは次のような場合に、「EXPRESSBUILDER」DVDに収録されている各OSのインストールレーションサブリメントガイドを参照して実施してください。

- システム構成を変更（内蔵オプションの追加など）した場合
- Windowsシステムを修復（修復セットアップなど）した場合
- バックアップツールを使用してシステムをリストアした場合
(サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクまたはRUR CD-ROMを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。)

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」DVDを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「Boot Selection」メニューが表示されます。
3. [Tool menu (Normal mode)]- [Japanese]-[Maintenance Utility] を選択する。
4. [システム情報の管理] から [退避] を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のRAIDコントローラなど、本装置に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。



- BTO（工場組み込み出荷）により、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているボードの一覧については「EXPRESSBUILDERがサポートしている大容量記憶装置コントローラ」（14ページ）を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。



本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. RAIDコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDシステムの設定を行う。
RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。
3. 「EXPRESSBUILDER」DVDからシステムを起動させる。
4. [EXPRESSBUILDERにドライバをロードする]を選択し、[次へ]をクリックする。
「ドライバのロード」画面で大容量記憶装置用OEM-DISKをセットして [実行する] をクリックする。



このオプションを選択することで、CD-ROMまたはフロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. 以下の設定でシームレスセットアップを実行する。
 - － RAIDの設定画面が表示された場合は、[論理ディスクの作成をスキップする] をチェックする
 - － アプリケーションの設定で[大容量記憶装置用OEM-Diskの適用]を追加する



このオプションを選択することで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

6. シームレスセットアップの途中で [大容量記憶装置用ドライブ] をコピーする。

大容量記憶装置コントローラに添付されているCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



ローカルインストール

ローカルインストールについて説明します。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

ローカルインストールでWindows Server 2003 x64 Editionsをインストールする方法については、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Editionsインストールサブプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「OEM-Disk」を作成しておいてください。



ヒント

OEM-Diskとは？

「ローカルインストール」では、「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるOEM-Diskが必要です。

作成方法については、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 x64 Editionsインストールサブプリメントガイド」を参照してください。

Windows Server 2003の場合

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、ローカルインストールが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows Server 2003をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 インストールサブプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから「OEM-Disk」を作成しておいてください。



チェック

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

**OEM-Diskとは？**

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「ローカルインストール」では、「Windows Server 2003 OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるOEM-Diskが必要です。

「Windows Server 2003 OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」には、Windows Server 2003のインストールで必要となるRAIDコントローラやSCSIコントローラのドライバなどが含まれています。

作成方法については、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 インストールレーションサプリメントガイド」を参照してください。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストールレーションサプリメントガイド」の手順に従ってローカルインストールを開始する。
2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。

上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。



システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストールレーションサプリメントガイド」の手順に従ってローカルインストールを続行する。

以上で完了です。



セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. スタートメニューから[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。
2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。
4. [変更]をクリックする。
5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. [OK]をクリックする。
7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. [コンピュータの管理]を終了する。

以上で完了です。

再インストール (Linux)

Linuxを再インストールする手順について説明します。

注意事項

インストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

- キー入力について

フロッピーディスクドライブ、光ディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき（フロッピーディスク、DVD-ROMへのアクセスがないとき）にキー入力をしてください。

セットアップの手順 (Linux)

Linuxをインストールする場合、「Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書」を参照してインストールしてください。

管理用リモートデスクトップについて

Windows Server 2003 x64 EditionsやWindows Server 2003をご使用の場合に必要な管理用リモートデスクトップの設定について説明します。

**重要**

管理用リモートデスクトップを使用するのに、有償のターミナルサーバークライアントアクセスライセンスは必要ありません。管理用リモートデスクトップは、最大2つの同時接続が可能です。

**チェック**

カスタムインストールモデルをご購入の場合は、管理用リモートデスクトップの設定は必要ありません。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

次の手順にしたがって設定をします。

**重要**

管理用リモートデスクトップを使用するためには、administratorにパスワードの設定が必要です。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
2. [リモート]タブを選択し、[リモートデスクトップ]項目の[このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する]をチェックし、[OK]をクリックする。

Windows Server 2003の場合

次の手順にしたがって設定をします。

**重要**

管理用リモートデスクトップを使用するためには、administratorにパスワードの設定が必要です。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
2. [リモート]タブを選択し、[リモートデスクトップ]項目の[このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する]をチェックし、[OK]をクリックする。

FibreChannelコントローラ(N8403-018) ご使用時の注意事項

FibreChannelコントローラ(N8403-018)ご使用時の注意事項について説明します。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

システムに、FibreChannelコントローラ(N8403-018)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動インストールされません。その場合にはシステムのアップデートを行ってください。システムのアップデートを行うとドライバが自動でインストールされます。

Windows Server 2003の場合

システムに、FibreChannelコントローラ(N8403-018)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動インストールされません。その場合にはシステムのアップデートを行ってください。システムのアップデートを行うとドライバが自動でインストールされます。

